

表千家不審菴での学校茶道研修会に参加して

伊那弥生ヶ丘高校茶道部では、さる7月29日、表千家不審菴で行われた学校茶道研修会に参加しました。この研修会には5年ぶりの参加となります。



茶道部には現在3年生3名、2年生6名、計9名で、外部講師の春宮千春先生のご指導の下、ほぼ毎週水曜日の放課後に、お稽古に励んでいます。百十余年の本校の歴史の中で、最も古くから活動

が続けてきたクラブの一つとして、脈々と先輩方が残されてきた伝統を受け継ごうと励んできました。従来同窓会総会、文化祭での呈茶サービスで、日ごろの稽古の成果をご披露してきましたが、コロナ禍においては、こうした活動はほぼ自粛してきました。しかし今年度になり、コロナの扱いが緩和されて以来、多くの皆様に支えられ、従来の活動を再開しています。



今回の研修の前日28日には、幸運なことに大徳寺聚光院で、千利休月命日に行われる月釜にも参加させていただく機会に恵まれました。また、千利休の墓前にお参りもさせていただき、厳かな気持ちになりました。貴重な体験でした。



翌日29日には表千家お家元
のお住まいでもある不審菴を訪
れました。この不審菴での研修内
容は、お家元見学、呈茶、講話で
した。ある小さな茶室を見学し、
座らせていただいたとき、ここが

はるか昔、国の政を担う要人がひと時の茶事に心を休めた場所であったかと想像す
るだけで、感慨深いものがありました。

研修会講話では、ある宗匠様からお茶を通して何を学ぶかという問いかけがあり
ました。答えはこうでした。「教えてくれる方に同じことを何遍も言わせてはあかん
ということです。」この一言に私たちは身が
引き締まりました。「物事を学ぶ際には、聞き
逃すことなく、見逃すことなく集中して学び
取ろうとする気概を持ちなさい。」と教えて
いただいたように思えたからです。



この日、京都は気温約38度でした。冷房のないお茶席で、皆足の痛さと、暑さに
耐えるまさに修行の時間でもありました！

最後に、お茶をいただいた茶席の床の間にかけてられたお軸に「説似一物即不中」と
いう文字がありました。これは意味深く、いつまでも心に残る言葉となりました。

一泊二日の京都への旅はあっという間に過ぎてしまいましたが、皆益々茶道の奥
深さに魅せられてしまった研修会でした。